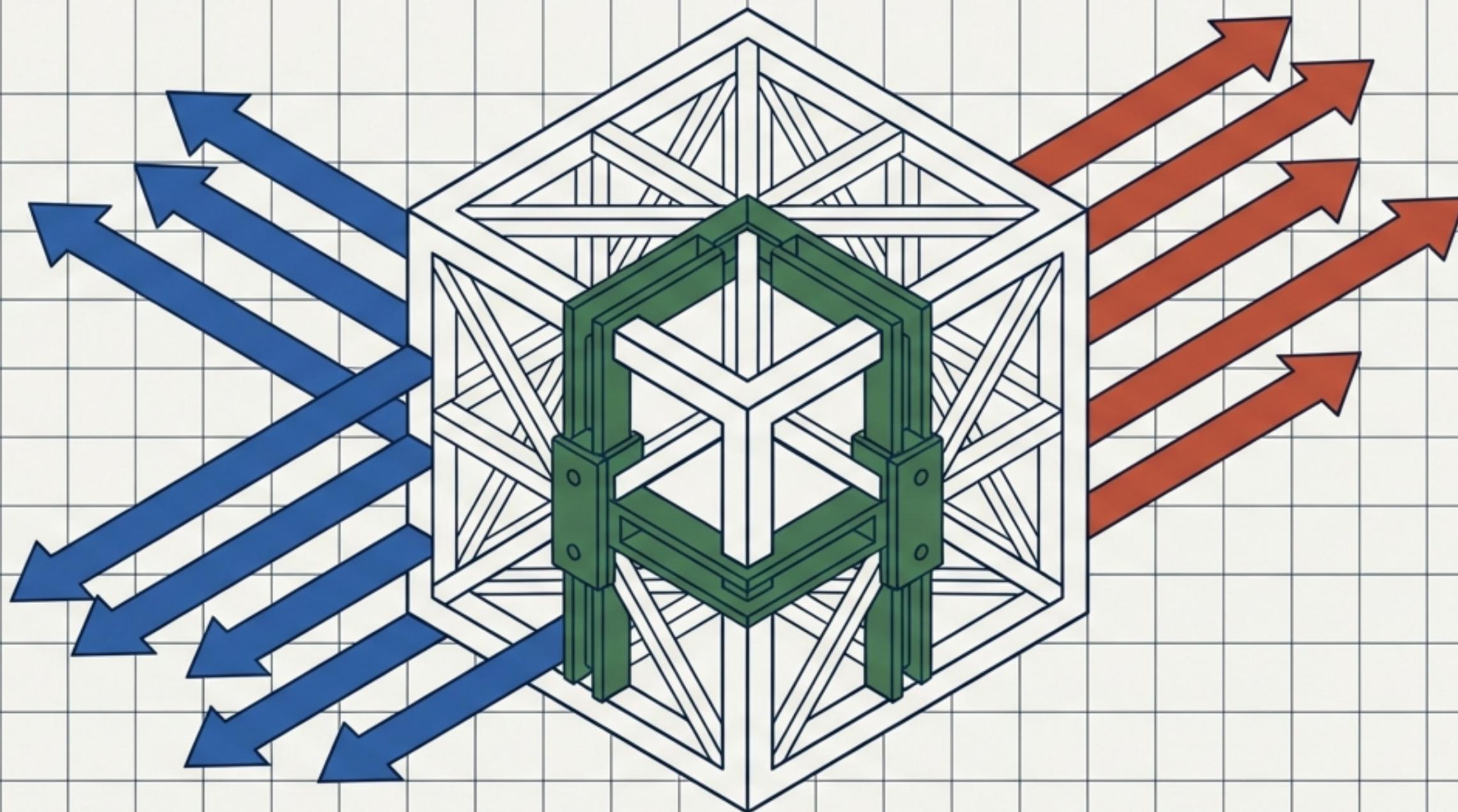
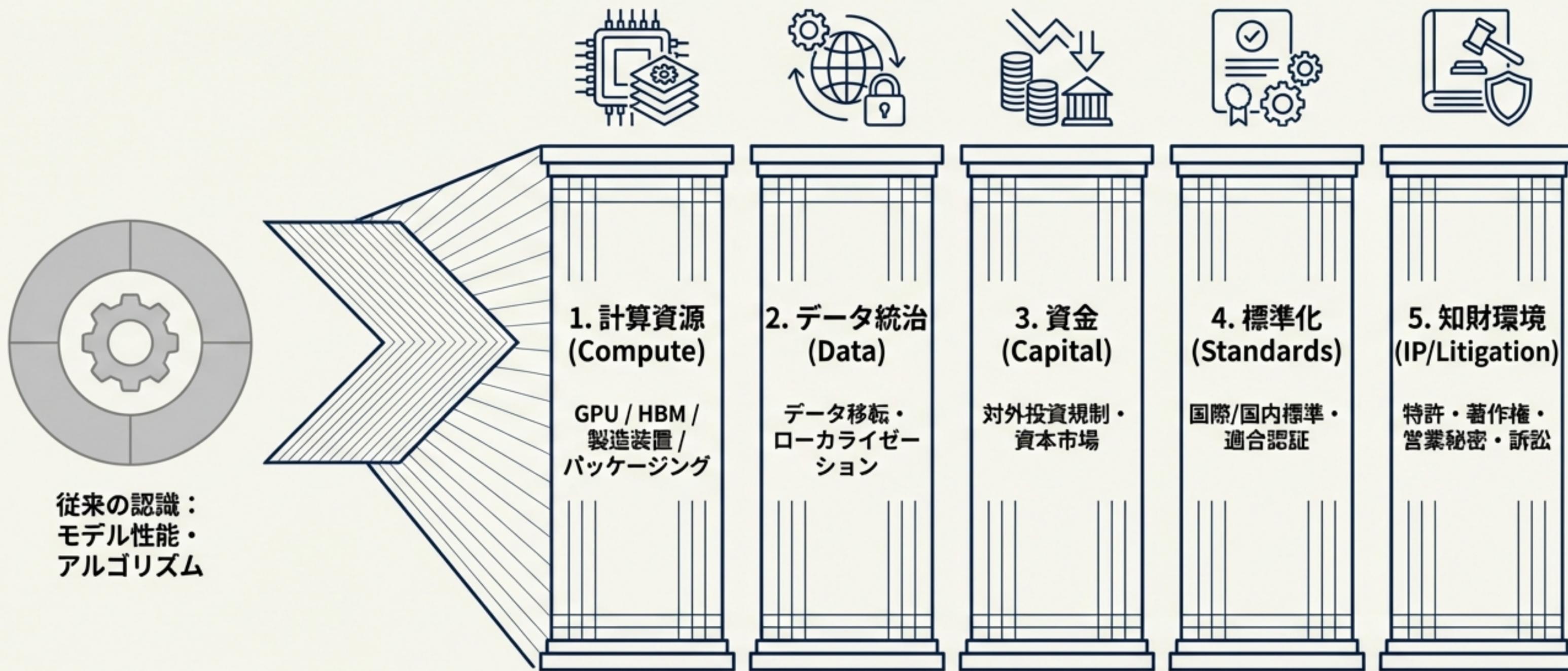


# 分断と再構築のアーキテクチャ：米中AI覇権争い下の知財・R&D戦略

2024-2030年の地政学リスクを成長機会に変える、日本企業のための「市場別・知財アーキテクチャ」構築アプローチ。

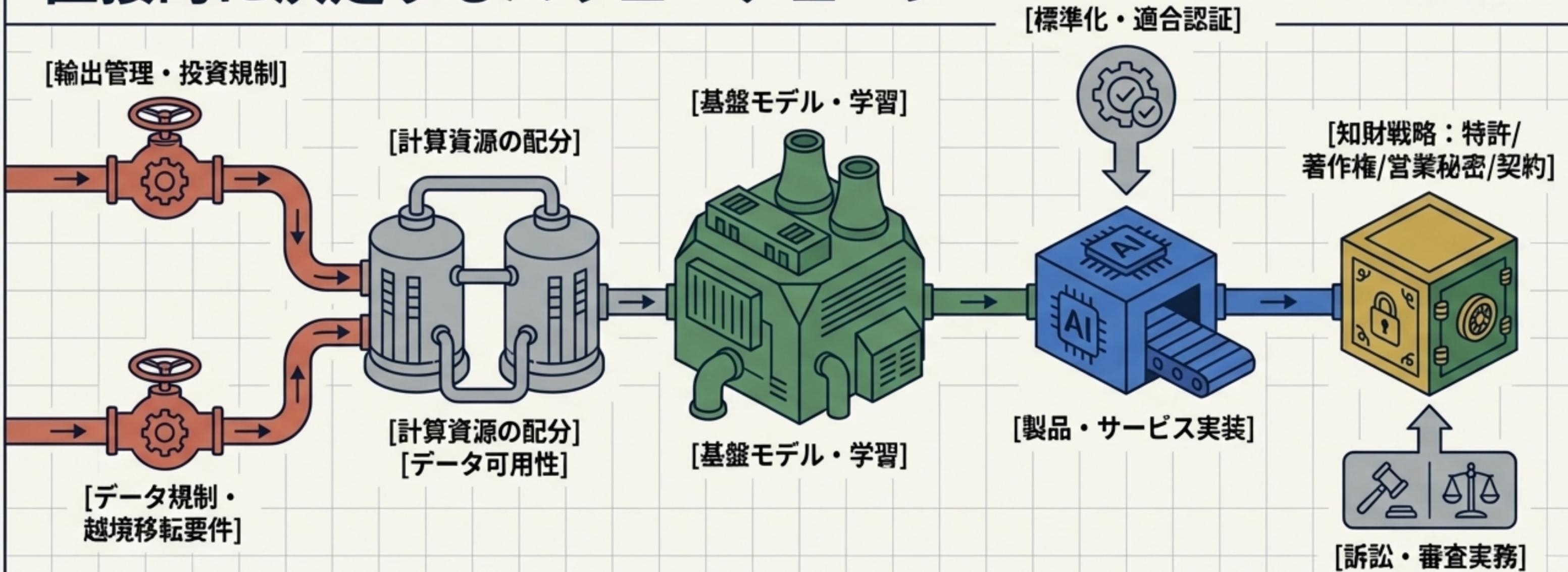


# AI覇権の主戦場は「モデル性能」から「AIスタック全体の支配」へ拡張している



米中競争は単なる技術競争ではなく、資源・制度・標準の獲得競争である。  
知財戦略は、これら5つのレイヤーすべてを統合して再設計されなければならない。

# 規制とコンプライアンスが「技術の利用可能性」を直接的に決定するバリューチェーン



日本企業は「研究開発」「調達」「ライセンス」「データ移転」を切り離さず、  
一体のアーキテクチャとして設計し直す必要がある。

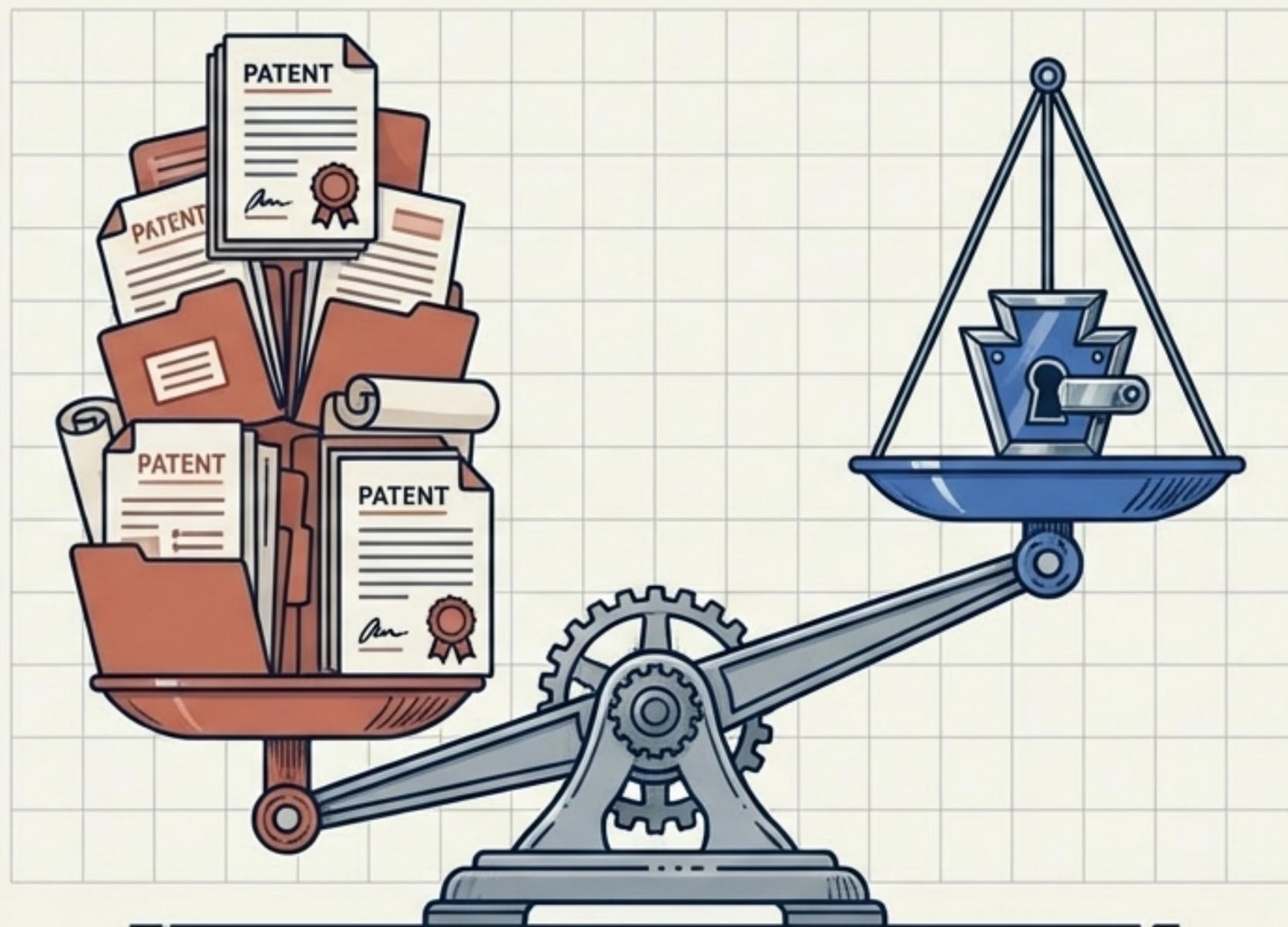
# 「特許の量的優位」を誇る中国と、「標準とエコシステム支配」を狙う米国



中国の戦略：圧倒的な量とデータローカライゼーション

データ：発明者所在地ベースで約3.8万件超  
(生成AI特許ファミリー)

方針：国家計画（2030年AIイノベーション中心）に基づく力技の知財獲得。



米国の戦略：標準化とエコシステムの支配

データ：約6,300件  
(特許地図上は劣後)

方針：同盟国を巻き込んだ「ゴールドスタンダード」の形成、先端計算の輸出管理によるレバレッジ。

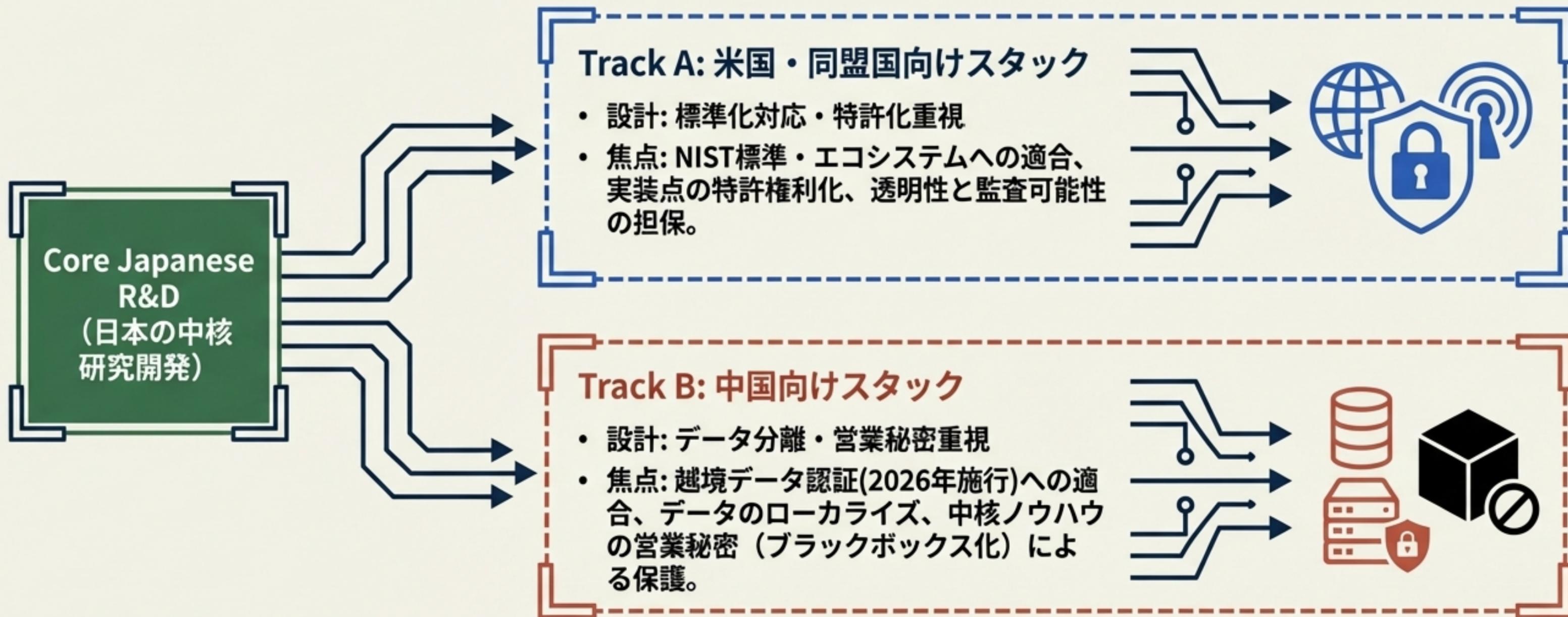
WIPOの分析（2014-2023年で5.4万件の特許ファミリー）が示す通り、特許の量的競争は激化している。しかし、米国は投資・輸出・標準のレバーで対抗しており、日本企業は「量」とは異なる戦い方が求められる。

# 米中戦略の徹底比較：相反するルールが 日本企業のグローバル戦略を分断する

	米国 (United States)	中国 (China)
政策目標 (Policy)	米国の世界的リーダーシップと「ゴールドスタンダード」の普及 (2025~)	2030年に世界主要AIイノベーション中心となる国家計画
輸出・投資 (Capital & Export)	先端計算・半導体の輸出管理を継続更新 (ケースバイケース審査へ)。対外投資の厳格規制	計算カインフラの量的目標推進。重要鉱物 (ガリウム・黒鉛等) の輸出管理強化
データ・標準 (Data & Standards)	NIST系枠組みが中心。連邦包括法より調達契約・リスク管理枠組み重視	越境データ流通規定(2024)、個人情報域外移転認証制度(2026施行)による制度的統治
知財・訴訟 (IP & Copyright)	AI特許適格性の明確化。生成AI学習における著作権 (フェアユース等) の訴訟・線引きが進行	生成AIサービス規制で「合法的出所」「知財権侵害禁止」を明文要求

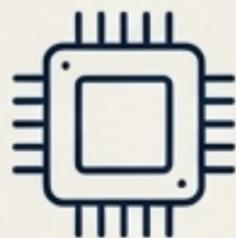
これらの制度的矛盾により、単一のグローバル製品・知財戦略はもはや成立しない。

# 解決策：「市場別アーキテクチャ」による知財とR&Dの二重運用設計



日本企業は「米国向けに権利化・標準対応した製品」と「中国向けにデータ越境要件を満たす運用設計」を同時に、かつ物理的・法務的に分離して構築せねばならない。

# 産業別インパクト・ダッシュボード (1/2) : ハードウェアと製造の攻防



## 半導体 (Semiconductors)

### 制約 (Constraint) :

米国の先端計算・HBM等への輸出管理拡大と、中国側の重要鉱物輸出管理によるサプライチェーン・交渉力の変数化。

### 知財アクション (IP Action) :

- ① 「輸出管理抵触技術」と「非対象」を特許・営業秘密で仕分け。
- ② 対象国・用途・再輸出条項を前提としたクロスライセンスの再設計。



## 製造業 / スマートファクトリー (Manufacturing)

### 制約 (Constraint) :

グローバル展開における設備・工程データの越境移転規制 (中国)。  
学習・評価ログの移転がボトルネックに。

### 知財アクション (IP Action) :

- アルゴリズム単体ではなく、
- ① データ前処理・工程制御の「特許化」、
  - ② 現場ノウハウ・運用レシピの「営業秘密」、
  - ③ ISO/IEC標準インターフェースへの「適合」を組み合わせる。

# 産業別インパクト・ダッシュボード (2/2) : ソフト・ロボティクス・医療の適応



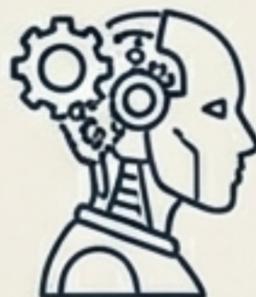
## ソフトウェア・AIサービス

### 課題

学習データの適法性・著作権侵害リスクと、米国におけるフェアユース訴訟の激化。

### アクション

「データ取得経路のトレーサビリティ確保」「学習データの権利処理」「ベンダー保証・補償条項」の契約実務への組み込み。



## ロボティクス

### 課題

ハードとソフトの密結合。中国のAI産業標準整備による適合評価が製品参入条件化。

### アクション

標準必須・近接部分の「権利化」と、非公開が有利な制御ノウハウの「営業秘密」による二段構えの防衛。



## 医療・ヘルスケア

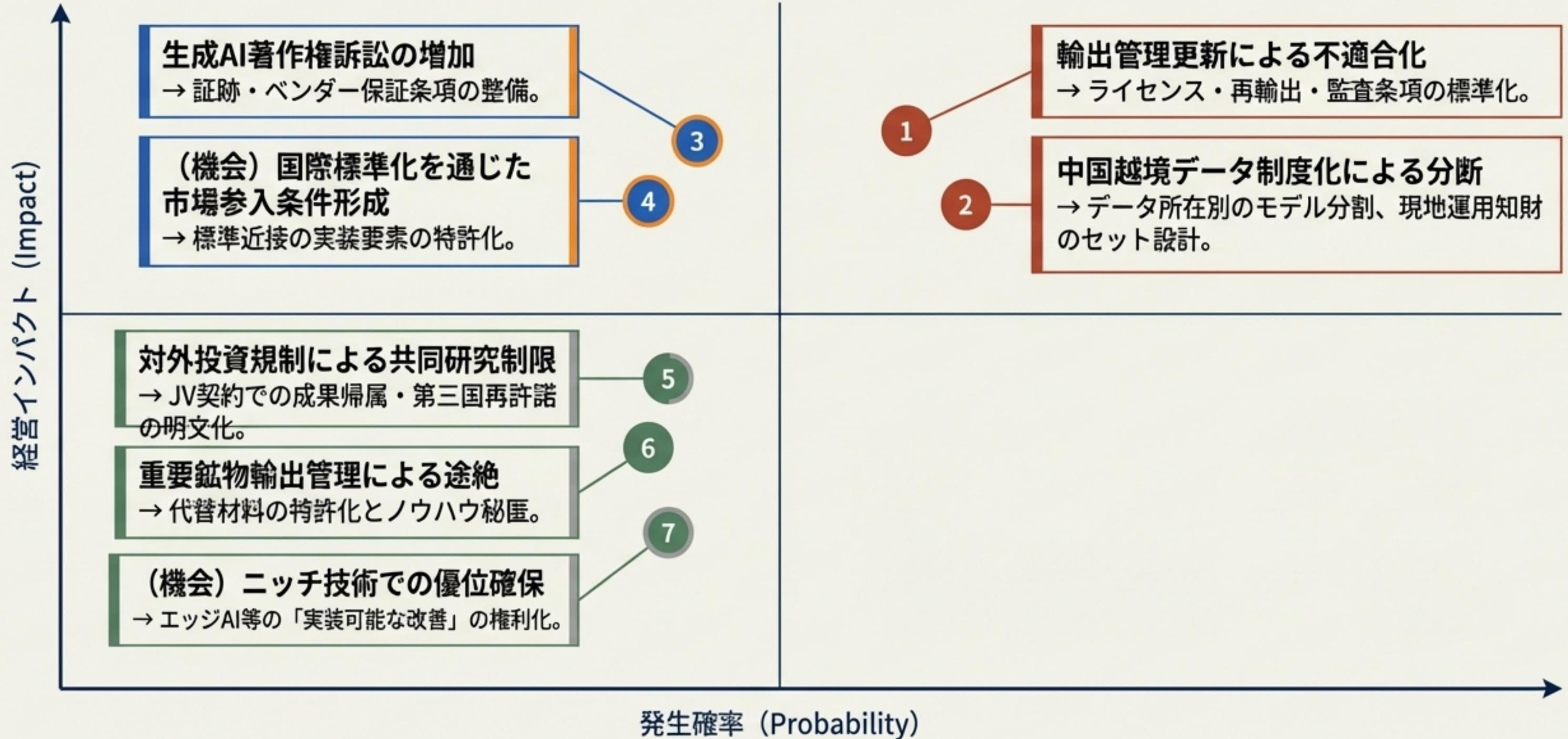
### 課題

中国の個人情報域外移転認証制度の施行による、国際共同研究や臨床データ解析の分断。

### アクション

個人情報を移転しない分散学習、匿名加工・合成データ、データクリーンルーム型の共同研究設計によるコンプライアンス確保。

# リスク&機会マトリクス：発生確率と経営インパクトによる優先順位付け



# 2027年以降の分岐：知財戦略を左右する3つの将来シナリオ

## シナリオ A: ブロック化の加速

### Trigger

輸出管理とデータ規制の積み上がり。米国技術の同盟国困い込みと、中国の独自標準・データ制度化。

### Result

スタック間の相互運用性が完全に低下。完全な二重運用（デュアルアーキテクチャ）が必須に。

## シナリオ B: 選別的相互依存

### Trigger

最先端技術は遮断されるが、商用領域ではケースバイケースの許可・認証が残存。

### Result

審査方針の運用設計次第で取引余地が残る。俊敏な法務・コンプライアンス対応が競争力に。

## シナリオ C: 知財・データ訴訟によるコスト上昇

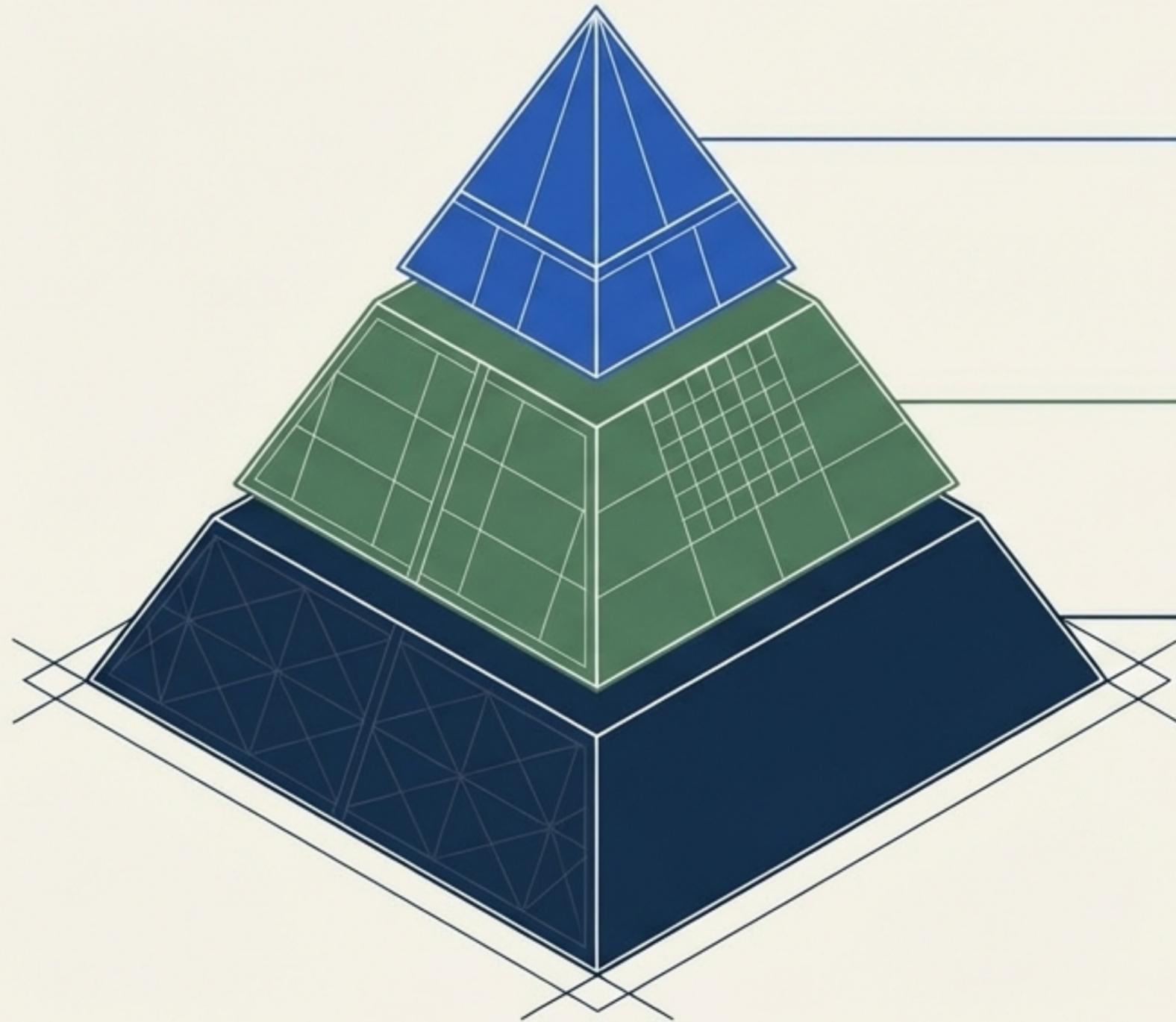
### Trigger

特許・著作権・営業秘密が競争手段として前面化。市場代替性を巡る紛争の激化。

### Result

学習データ入手経路の透明性や、無効化耐性の高い特許網の構築が、事業継続の絶対条件となる。

# 日本企業の防衛構想：実務的「三層構造」への再設計



**第三層：同盟・エコシステム参加 (Apex)**  
共同研究・クロスライセンス・標準化活動への積極的関与。  
孤立を避け、国際ルール形成 (ISO/IEC等) へ参画する。

**第二層：標準化・実装点を押さえた権利化 (Structure)**  
特許・営業秘密・著作権の厳密な役割分担。「無差別な出願」を止め、「標準化に近い実装点」の権利化と「運用ノウハウ」の秘匿化を分ける。

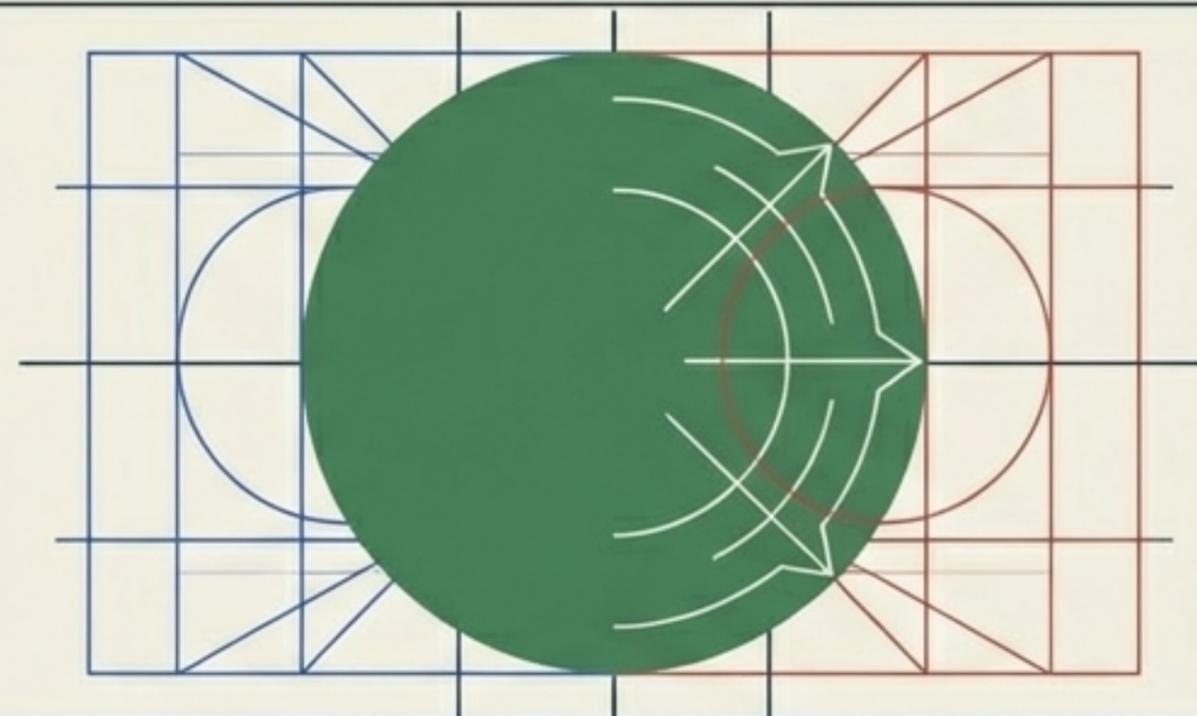
**第一層：地政学リスク耐性 (Foundation)**  
コンプライアンスと供給途絶の前提化。輸出管理・投資審査・データ規制をクリアする調達・研究・法務・セキュリティの統合設計。

**Side Note:** 国内ガイドライン (AI事業者ガイドライン等) を社内統治の“共通言語”として活用せよ。

# エグゼクティブ・アクション・プラン：分断耐性を構築するロードマップ



# 結論：単なる「ルール遵守者」から「ルール・メイカー」への転換



## 【戦略的急務 (The Strategic Imperative)】

計算資源・データ・資金・標準化が兵器化される世界において、特許部門だけの知財戦略は機能しない。経営トップ主導による「調達・研究・法務の統合設計」が急務である。

## 【日本の特異なレバレッジ (Japan's Unique Leverage)】

日本は「広島AIプロセス」等を通じ、ガバナンスや標準・実装の国際議論に関与しやすい特異なポジションにある。

## 【最終結論 (Final Takeaway)】

2030年に向けた最も再現性の高い戦略は、自社の知財ポートフォリオを単なる法的防御ではなく、「国際ルールと接続し、エコシステムを牽引する資産」として再設計することである。